

高校生ものづくりコンテスト 大分県大会が開催されました

6月14日（金）に高校生ものづくりコンテスト大分県大会（九州大会予選）が、大分県立大分高等技術専門校で行われました。

大会は、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測定の7つの部門に分かれて実施されました。

自動車整備部門には、鶴崎高等学校及び大分工業高等学校からそれぞれ2名ずつ出場し、4つの課題について競い合いました。（課題1は学科問題、残りの3つの課題は実技競技）

課題1の学科問題は、20問の3級整備士レベルの問題を30分で解いていきます。これは3級整備士の登録学科試験の30問を60分で行うという厳しい条件でしたが、最高得点は登録試験の合格点である70点を上回る80点でした。

課題2は測定作業で、マイクロメーターやノギスを使った測定作業です。測定作業については日頃から練習をしているようで、ゼロ点確認や測定箇所清掃など、基本作業は全員がしっかりとできていました。

課題3は現車を使った定期点検で、エンジンルーム内や電気回りの点検、また、指示された箇所の測定（タイヤ空気圧、パッドの残量等）するというものでしたが、ジャッキとリジットラックを使ってのジャッキアップということもあり、時間内に完了しない選手も多くいました。

課題4はベンチエンジンを使っての故障診断で、基本点検やスキャンツールを使って、不具合箇所を見つけるというものです。

結果は、400点満点中、346点だった久壽米木琢也さん（鶴崎工業高等学校）が優勝し、7月14日に行われます九州大会に大分県代表として出場します。

この九州大会には、宮崎県を除く7県の代表選手が出場し、全国大会の出場権をかけての戦いが行われます。

九州大会は九州各県持ち回りで2年ずつ行われ、昨年に引き続き今年も当県の大分県立大分高等技術専門校において開催されます。

当振興会も次代を担う若者の育成のため、昨年に引き続き、問題作成、大会運営、審査員として、出来る限りの協力をさせていただきます。



課題2の測定作業



リジットラックをセットする選手



ベンチエンジンによる故障診断